

科目名・単位数	IFRS I 2単位	科目分類	財務会計系	発展科目
配当年次	1年次・秋学期・昼・夜	担当教員	くぼ ゆきとし	
履修形態	選択必修		久保 幸年	
授業概要	<p>国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards 以下「IFRS」という。）は、原則主義により基準の適用を図ることとなるため、各基準の的確な理解と適用時点における個別の判断が適切になされる必要がある。100カ国以上の他国と同様、日本基準の多くの改正・新設がIFRSへの投合・導入を踏まえて行われてきたことから、日本基準の理解においてもIFRSの理解が必要である。特に、わが国の収益の認識に関する会計基準及び税務基準(法人税法)においてIFRSを基本的に導入したことが注目されている。</p> <p>そこで、本講では、IFRSの設定や構成を理解し、IFRSの理解に必要な基礎知識や主要なIFRSにおける会計基準及びわが国の会計基準との相違等を学んでいくこととする。なお、わが国の規則等においては、IFRSは国際会計基準とも呼ばれている。</p>			
到達目標	IFRSに関する基本的な理解を得て、会計基準の下での会計処理という一般的対応を踏まえて、IFRSの適用が行えることを目標とする。			
事前・事後学習	<p>毎回配布するレジュメ及びIFRSを適用する事例の解説について復習をしておくこと。 また、必要に応じてIFRS基準を参考図書（本シラバスに掲記）で直接調べておくこと。 (90分)</p>			
授業方法	IFRSの各基準を説明したレジュメ・資料を用いて講義を行うことに加えて、必要に応じて基準の適用の事例の回答を求め、その解説を行いながら授業を進めることとする。			
成績評価の方法	授業時間において行う事例への回答(50%)及び討議(10%)並びに授業中の事例を踏まえた期末考査(筆記試験)の結果(40%)を総合的に判断する。			
フィードバックの方法	事例・レポートの解説は授業内で時間を設けて行う。			
授 業 計 画				
第1回	IFRSの経緯等と我が国におけるIFRSへの対応を理解するため、企業会計審議会、経団連、JICPA等における対応を説明する。続いて、IFRSを学ぶことの意義や有用性等を解説したのち、勉強の進め方について取り上げる。			
第2回	IFRSの基礎知識：IFRSの策定機関や関係機関と作成プロセスの理解を得て、IFRSがどのような基準からなっているかの構成を取り上げる。そして、IFRSの特徴と概念フレームワークを取り上げる。			
第3回	IAS 1 Presentation of Financial Statements（財務諸表の表示）：IFRSに基づく財務諸表の体系と様式を取り上げる。純損益と包括利益（二つの利益概念）、注記等、IFRSの特徴にスポットを当てつつ、理解を深めるようにする。なお、日本基準との相違も取り上げる。			

第4回	IAS 2 Inventories (棚卸資産) における棚卸資産の定義、測定、原価算定方法等を解説したのち、取得原価の算定(算入項目の範囲等)、日本基準との相違を踏まえながら、期末における評価(適用となる評価方法及び近似の場合の評価方法の適用)等について取り上げる。
第5回	IAS 16 Property, Plant and Equipment (有形固定資産) における有形固定資産の定義、取得原価の意義等を解説したのち、取得原価の算定、減価償却(耐用年数・償却方法・残存価額)、コンポーネント・アプローチ等について、日本基準との相違を掲げて取り上げる。
第6回	IAS 38 Intangible Assets (無形資産) における無形資産の定義、認識・測定等を解説したのち、日本基準との相違を掲げながら、開発費と研究、償却方法(耐用年数、償却方法、残存価額)等について取り上げる。
第7回	IAS 36 Impairment of Assets (資産の減損) における減損の兆候、回収可能額等を解説したのち、日本基準との相違を掲げながら、減損プロセスや回収可能性等について取り上げる。
第8回	IFRS 16 Leases (リース) におけるリースの意義、借手における使用权モデル等の内容・会計処理を取り上げて、貸手の会計処理との大きな相違等を解説したのち、日本基準との相違も取り上げる。
第9回	IAS 37 Provisions, Contingent Liabilities and Contingent Assets (引当金、偶発債務及び偶発資産) における引当金の認識の要件、偶発債務、偶発資産等を解説したのち、日本基準との相違を掲げながら、リストラクチャリング等のケースについて取り上げる。
第10回	IAS19 Employee Benefits (従業員給付) における退職給付制度と制度資産の評価、退職給付費用の構成要素等を解説したのち、日本基準との相違を掲げながら、有給休暇引当金等も取り上げる。
第11回	IFRS15 Revenue from Contracts with Customers (顧客との契約から生じる収益の認識) におけるコア原則を達成するための5ステップ(契約・履行義務の識別、取引価格の算定・配分等)を踏まえて、収益の認識・測定等について取り上げる。なお、日本の新基準も取り上げる。
第12回	IAS 12 Income Taxes (法人所得税) における税金の認識・測定を解説したのち、わが国の実務上の取扱い指針を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性、スケジューリング等について取り上げる。なお、日本基準との相違も取り上げる。
第13回	IFRS 3 Business Combination (企業結合) における企業結合の定義、適用要件、取得法等を解説したのち、日本基準との相違を踏まえながら、のれんの評価等を取り上げる。
第14回	IFRS 10 Consolidated Financial Statements (連結財務諸表) における主要規定を解説したのち、日本基準との相違を掲げながら、連結の範囲、決算日の差異(許容範囲と対応)、会計方針の対応等について取り上げる。
第15回	IFRS 5 Non-current Assets Held for Sale and Discontinued Operations (売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業) と、IAS 8 Accounting Policies, Changes in Accounting, Estimates and Errors (会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬) における表示と開示を取り上げる。
テキスト	IFRS の各基準を解説・説明したレジュメと関係資料を配布する。
参考図書	IFRS 財団編「国際財務報告基準 IFRS 2019」(中央経済社)